

学期	項目 (◎ 学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
第1部 歴史のとらえ方と調べ方				
第1節 歴史の流れと時代区分		<第1部第1節のねらい> ①中学校の歴史学習の導入として、小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ②小学校での学習を踏まえて、歴史上の人物や文化財、出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し表現させる。		<第1部第1節の評価規準> ①年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ①資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ②時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。 ③過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	歴史をたどろう ◎この絵は何だろう？	絵を活用して、小学校で学んだ内容を取り上げ、歴史を大きく変えた人物や出来事を考察し、時代を区分することの意味や意義を理解する。	・4人程度のグループで活動させる。 ・政治にかかわる人物の特徴（貴族、武士など）や友好・対立など外国との関係に関わる出来事に着目させ、年表に整理したものをもとに時代の転換点をいくつか挙げさせる。	①資料（絵）から歴史に関わる情報を適切に読み取ったり、年表などにまとめたりしている。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ、時代区分との関わりについて考察し表現している。
	1 年代の表し方と時代区分 ◎年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのだろうか。	西暦、世紀、元号の意味と使い方を理解する。 政治の中心地による時代区分や文化の特徴から名付けられた時代区分があることを理解する。	・「徳川家康はいつ活躍した人物か」などの具体的なできごとに関する問いの答えを、西暦、世紀、元号、時代区分などを使って表現させる。 ・「歴史をたどろう」（p.1）の道の上に、時代区分を書き込ませてもよい。	①歴史上の出来事について、西暦、世紀、元号、時代区分などを使って「いつ起こったか」を適切に説明している。また、古代、中世、近世、近代、現代が、〇〇時代といった時代区分のどの時代と対応するのかを理解し、その知識を身につけ、歴史上の人物が生きた時代区分を適切に説明している。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ、時代区分との関わりについて考察し、「歴史をたどろう」の道の上に、適切に時代区分を書き込んでいる。
第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた		<第1部第2節のねらい> ①身近な地域のなかで受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的なことがらとのかかわりのなかで地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けさせる。 ②博物館や郷土資料館などの利用や地域の人々の協力も考慮し、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現させる。		<第1部第2節の評価規準> ①自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的なことがらとの関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。 ②比較や関連、時代的背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心をもち、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
時期不定期	1 歴史の謎を探る～問いを作ろう～	地域の歴史にふれ、調べてみたいことがらを探し、班で話し合うなどしてから調べる課題を決定する。	・実際に見学し、直接関係者やさまざまな方々から話を聞くことができる場を工夫し、地域の歴史を事前に確かめておく。 ・新旧の地形図の比較をもとにテーマを決めさせる場合は、地域に出て調べられるものがあることを前提とする。	①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心をもち、小学校などで学んだ地域の人物、身近な人の話や言い伝え、地域の気になる建物・風景、遺跡・遺物、行事・風習などから、話し合いをもとに調べるテーマを適切に決めている。 ①図書館、博物館・資料館、インターネットなどから適切に情報を集める技能を身に付けている。
	2 資料をよく見てヒントを探そう	教科書や地域の副読本など、身近な資料から基本的な情報を集め、調べる視点を明確にして、いくつかの予想（仮説）を立てる。ルートマップなどの地図を用意し、マナーを守りながら野外調査や聞き取り調査を行って、情報を収集し、整理する。	・地域の図書館や博物館、インターネットなども積極的に利用させる。 ・予想（仮説）を立てるときには、日本の歴史の大きな流れとのかかわりやその由来に注目させる。 ・事実として確認できたことと確認できなかったことや、事実と自分の考えをしっかりと区別するように指導する。	①適切な地図の作り方・年表の作り方、野外・聞き取り調査のしかたを身に付けている。 ①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統や文化に関するさまざまな資料を収集し、予想に関連のある情報を適切に読み取ったり、事実と事実でないことを区別するなど記録を適切に整理したりしている。 ②野外調査や聞き取り調査を通して、分からなかったことや新たな疑問などを日本の歴史の大きな流れと結びつけて考察し、自分の予想を根拠をもとに適切に表現している。
	3 謎解きの答えを分かりやすくまとめよう	調べたり考えたりしたことを整理し、まとめの報告書（レポート）を作成する。 調べたことを発表し、意見交換を行ったのち、調査全体をふりかえり、改善できる点や工夫できる点を探して、今後の調査活動に生かせるようにする。	・模造紙やコンピュータなどを使ったプレゼンテーション、グループディスカッション、パネルディスカッションなど、テーマや内容に応じて適切な方法で発表や意見交換を行わせる。 ・ほかの人の意見や観点を共有することで、より学習を深めることができることを実感させる。	①適切なレポートのまとめ方、発表のしかたを身に付けている。 ①調査を通してわかったことがらを適切な項目を立てて整理し、根拠となる資料を年表、地図、写真・イラスト、関係図・流れ図などを用いて表現している。

第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり				
第1章 古代 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■ 古代の国が成立するために重要なことは何か。	<第2部第1章のねらい> ①世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解させる。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 ①律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを基に，東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ①仏教の伝来とその影響，仮名文字の成立などを基に，国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境，農耕の広まりや生産技術の発展，東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②古代までの日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ③古代までの日本について，よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究させる。			<第2部第1章の評価規準> ①世界の古代文明や宗教のおこりを基に，世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰，大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に，東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ①律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを基に，東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ①仏教の伝来とその影響，仮名文字の成立などを基に，国際的な要素をもった文化が栄え，それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境，農耕の広まりや生産技術の発展，東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②古代までの日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③古代までの日本について，よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	第1節 人類の登場から文明の発生へ ◇節の問い◇ 世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか。			<「世界の古代文明や宗教のおこり」を扱うこの単元のねらい> ○古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察し，世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には，生活技術の発達，文字の使用，国家のおこりと発展，都市や巨大建造物，身分の分化などの共通する特徴があることに気付かせる。 ○ギリシャ・ローマ文明の政治制度について，現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解させる。
	<「世界の古代文明や宗教のおこり」を扱うこの単元の評価規準> ①世界の古代文明や宗教のおこりをもとに，世界の各地で文明が築かれたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境に着目して，文明や宗教の特徴を比較して考察し，共通点に気付くなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③世界の古代文明や宗教のおこりについて，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			
1年1学期	1 人類がたどった進化 ◎人類は，進化の過程で、どのように生活を変化させてきたのだろうか。	環境の変化とともに，人類はどのように進化してきたのかを，文章や資料から読み取り，表または図にまとめる。	・人類が，厳しい環境を生きぬくなかで，知恵や工夫をつちかってきたことを，道具の種類や用途をふまえながら実感させる。	①猿と人類（猿人・原人・新人）の違いについて，表または図に適切にまとめ，理解している。 ①旧石器時代には，日本列島が大陸と陸続きであったこと，現在の日本列島でも当時人類が生活していたことを理解している。 ②旧石器時代と新石器時代の石器の違いや土器が作られるようになったことなどをもとに，環境の変化に合わせて人類の生活がどのように変化したかを考察し，適切に表現している。
1年1学期	2 世界各地で生まれる文明 ◎古代文明はどのような特徴を持っていたのだろうか。	文明はどのような地域で誕生し，またその地域ではどのようなものが生まれたのかを，文章や地図資料から読み取り，表にまとめる。	・メソポタミア文明，エジプト文明，インダス文明，中国文明を農耕や文字，青銅器や建造物中心にまとめさせ，世界の古代文明に共通していることがらに気付かせる。	①世界の古代文明について，成立した時期，文明が生まれた地域，その地域で生まれたものを表で適切にまとめ，理解している。 ②古代文明が誕生した地域と古代文明に共通する特徴を考察し，都市のおこり，金属器や文字の使用などの特徴について適切に表現している。
1年1学期	3 東アジアの文明の広がり ◎古代の中国は，どのように統一されていったのだろうか。	中国に登場した秦や漢ではどのような政治が行われたのか，文章や資料から読み取る。	・秦の始皇帝の政治の特色，漢と周辺諸国との関係，シルクロードの役割，儒教と仏教の違いなどに気付かせる。	①漢の時代の中国と周辺諸国との関係について，「朝貢」という言葉が意味することを中心に理解している。 ②紀元前3世紀に中国を統一した秦の始皇帝の権力の強さについて考察し，政治のしくみ，兵馬俑坑や万里の長城のような具体的な事例による根拠にもとづいて適切に表現している。
1年1学期	4 ギリシャとローマの政治と文明 ◎古代のギリシャとローマではどのような政治が展開されたのだろうか。	ギリシャとローマではどのような政治が行われたのか，文章や資料から読み取り，現代の民主政治と異なる点を考える。	・古代ギリシャで民主政が発達したことによって生まれた文化の特徴にも着目させる。 ・民主政や共和政が生まれた背景として，市民が国家の防衛や戦争をする上で重要な役割を担っていたという共通点にも気付かせる。	①ギリシャのアテネで行われた民会に参加している人々が成人の男子であることや，ローマ帝国がアジアとの交易を活発に行っていたことを資料から適切に読み取り，理解している。 ②古代ギリシャの民主政や古代ローマの共和政の共通点，現代の民主政治と異なる点とは何かを考察し，政治の権利を持つ人や労働を担う奴隷などに着目して，適切に表現している。

1 年 1 学期	5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生 ◎仏教・キリスト教・イスラム教はどのようにおこり、広まったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 古代の四つの文明が誕生し発展するうえで共通する特徴は何か、説明しよう。	世界的な規模で信仰されている宗教は、どのように生まれ、広まっていったのか、文章や地図から読み取る。 ◇各文明が成立したときに出来たものを確認させる。	・各宗教が生まれた背景や広まっていく理由には、共通点があることに気付かせる。 ・文明がおこった地域と古代の文明地域と重なることに気付かせ、それがなぜかを文章から読み取らせる。 ◇文明によって生まれた政治や文化が発展していった国家と宗教との関係に着目して考えさせる。	①仏教、キリスト教、イスラム教が生まれた時期と場所、広まりのようす、シャカ、イエス、ムハンマドが説いたことなどを文章や地図、資料などから適切に読み取り、理解している。 ②古代文明と宗教の関係について地図や資料をもとに考察し、仏教、キリスト教、イスラム教などのおこった地域が、それぞれインドや西アジアなどの世界の古代文明地域と重なり、差別や貧富の差が宗教の誕生する背景として共通していることを適切に表現している。
第2節 東アジアの中の倭(日本) ◇節の問い◇ 日本列島には、どのようにクニが出来て、勢力を広げたのだろうか。		<「日本列島における国家形成」を扱うこの単元のねらい> ○日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、自然崇拜や農耕儀礼などにもとづく信仰が後の時代にもつながっていることに気付かせる。 ○古墳の大きさやその分布をもとに、ヤマト王権の勢力の広がりを大きくとらえさせ、東アジアとのかかわりについては、大陸から移住してきた人々のわが国の社会や文化に果たした役割に気付かせる。		<「日本列島における国家形成」を扱うこの単元の評価規準> ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとのかかわりなどをもとに、東アジアの文明の影響を受けながらわが国で国家が形成されていったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②農耕の広まりや生産技術の発展に着目して、農耕の広まりが生活や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本列島における国家形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1 年 1 学期	タイムトラベル① 縄文時代を眺めてみよう 紀元前25～前20世紀ごろのある場面 タイムトラベル② 弥生時代を眺めてみよう 紀元2～3世紀ごろのある場面	縄文時代と弥生時代の集落をえがいた想像図を比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるかを読み取り、各時代の特色を考え、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、社会が大きく変化したことに気付かせ、「なぜ争いが起こっているのか」などの追究課題を考えさせる。 ※各項目で学んだことがこのイラストに示されているかどうか、適宜ふりかえりをさせたり、学習のまとめとして時代の特色を説明するための内容を確認させたりする目的でもタイムトラベルのページを活用する。	①小学校の学習をふまえて、縄文時代と弥生時代の違いについて、道具や建物、作物などに着目し、適切なことがらを読み取っている。 ②人々がたて穴住居に住んでいること、土器をつくって利用していること、稲作の伝来などによって社会が変化し、争いが始まってクニ（国）が現れたりするなど、縄文時代と弥生時代の共通点や相違点を考察し、時代背景などをふまえて適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ①弥生時代と奈良時代の宗教の違いに着目して、変化があった時期を年表中から適切に選んでいる。 ②『タイムトラベル③』も参考にしながら、想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとに、原始・古代の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1 年 1 学期	1 縄文から弥生への変化 ◎縄文・弥生時代の日本列島の人々の生活には、どのような特徴があったのだろうか。	縄文時代から弥生時代にかけて、人々の生活はどのように変化したのか、稲作とかかわらせて考える。	・自然環境（気候）や大陸とのかかわりの変化によって、生活が変わり時代が移っていくことに気付かせる。 ・『タイムトラベル①・②』を活用するほか、石器、土器、金属器のレプリカや写真など、できる限り視覚に訴える資料を提示する。	①稲作が始まり、米の保存・煮たきに適した弥生土器、稲をたくわえるための高床倉庫、豊作を神に祈る道具として青銅器がつくられ利用されるようになったことなど、弥生時代に人々の生活がどのように変わったか、具体的な事例をもとにして理解している。 ②気候が暖かくなり、森林が広がったこと、稲作が伝わり西日本から東日本に広がるなどの環境の変化に合わせて、生活がどのように変化したかを資料をもとに考察し、適切に表現している。
1 年 1 学期	2 ムラがまとまりクニへ ◎日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。	日本列島の各地にあった国々はどのようにしてまとまっていったのか、中国の歴史書が伝えていることなどをもとに考える。	・吉野ヶ里遺跡や復元模型、中国の歴史書の記述をもとに考えさせる。 ・ヒスイや貝製の腕輪が見つかった遺跡から、日本列島各地が交易で結びついていたこと、北海道や南西諸島では狩りや漁を中心とした生活が続いていたことに気付かせる。	①『漢書』、『後漢書』、『魏志』倭人伝に書かれた倭（日本）のようすから、紀元前1世紀ごろには100余りの国に分かれていたこと、1世紀の半ばに奴国の王が漢に使いを送り、金印を与えられたこと、3世紀には邪馬台国の女王卑弥呼が30余りの国を治め、中国に使いを送って倭王の称号と金印、銅鏡を得ていたことなどを適切に読み取り、理解している。 ②弥生時代には土地や水の利用をめぐる争いがあったことを、佐賀県の吉野ヶ里遺跡で発掘された大きな集落のあとや、人骨などのような具体的な事例をもとに考察し、根拠にもとづいて適切に表現している。

1年1学期	<p>3 鉄から見えるヤマト王権</p> <p>◎ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 日本列島において、クニができ、勢力を広げていくのに重要だったことは何か、説明しよう。 歴史を探ろう 古墳から分かる当時の様子</p>	<p>ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのか、鉄や前方後円墳が各地に広まった理由をもとに考える。</p> <p>◇ムラからクニ、さらにヤマト王権へとまとまる過程を確認させる。</p>	<p>・当時の日本列島で鉄が貴重だった理由（農業や軍事面）を考えさせる。 ・ヤマト王権は豪族たちにただ鉄や技術を与えただけではなく、兵士の動員などを義務づけていたことに気付かせる。</p> <p>◇中国や朝鮮半島から伝わったさまざまなものに着目して考えさせる。</p>	<p>①渡来人が伝えたさまざまな技術について、土器を高温で焼く技術が伝わり、これまでよりも丈夫な須恵器が生産されるようになったことなど、具体的なことがらを理解している。 ②ヤマト王権の勢力拡大に鉄が果たしていた役割を考察し、各地の豪族が、鉄の豊富な朝鮮半島とのつながりがあるヤマト王権と結びつきを強めようとした理由などを、根拠をもって適切に表現している。</p>
<p>第3節 中国にならった国家づくり ◇節の問い◇ 日本の古代国家は、どのような国づくりを行ったのだろうか。</p>		<p>＜「律令国家の形成」「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元のねらい＞ ○聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きくとらえさせ、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解させる。 ○大陸からもたらされた仏教が、わが国の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気付かせ、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解させる。</p>	<p>＜「律令国家の形成」「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元の評価規準＞ ①律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③律令国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
1年1学期	<p>タイムトラベル③ 奈良時代を眺めてみよう 8世紀ごろのある場面</p>	<p>縄文時代や弥生時代の集落などと奈良時代の国分寺建設のようすをえがいた想像図を比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。</p>	<p>・「次の場面を探してみよう！」の課題の他、役人や僧侶と民衆の格差が分かるもの（住宅や服装）、古墳の土などが寺院建設に利用されていることに気付かせる。 ・「僧侶と役人（政治）の関係はどのようなものだったのか」「荷物を運んでいる農民は、どこから来て、どこへ向かっているのか」などの追究課題が考えられる。</p>	<p>①小学校の学習をふまえて、縄文時代・弥生時代と奈良時代の違いについて、建物や人々の服装、人々が果たしている役割の違いなどに注目し、仏教伝来後の寺院建設など、適切なことがらを読み取っている。 ②建設されている国分寺の近隣の農民がたて穴住居に住んでいること、かつての権力の象徴だった古墳が、奈良時代に重要な役割を果たす仏教寺院の建設に利用されていることなど、縄文・弥生時代と奈良時代の共通点や相違点を考察し、時代背景などをふまえて適切に表現している。</p> <p>【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ①弥生時代と奈良時代の宗教の違いに着目して、変化があった時期を年表中から適切に選んでいる。 ②『タイムトラベル①、②』も参考にしながら、想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして、古代までの時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。</p>
1年1学期	<p>1 ヤマト王権と仏教伝来</p> <p>◎蘇我氏や聖徳太子は、国づくりのためにどのような改革を行ったのだろうか。</p>	<p>蘇我氏や聖徳太子は、どのような国をつくろうとしたのか、蘇我氏と聖徳太子が協力して行った政策などをもとに考える。</p>	<p>・地図を用いて、当時の東アジア諸国間に緊張が高まっていたことを確認する。 ・新しい国づくりを進めていく上で、隋との間にどのような関係が必要で、そのためにどのような政策を実施したのかを考えさせる。</p>	<p>①蘇我氏と聖徳太子が協力して行った政策、隋との結びつきが必要だった理由、仏教が果たした役割を理解している。 ①当時は女性天皇が多く生まれていることなど、系図を適切に読み取る技能を身につけている。 ②仏教を取り入れた理由や遣隋使を派遣した目的を考察し、それぞれの影響についても適切に表現している。</p>
1年1学期	<p>2 律令国家を目指して</p> <p>◎東アジア諸国との関係のなかで、倭国(日本)はどのような改革を進めたのだろうか。</p>	<p>東アジア諸国との関係のなかで、倭（日本）はどのような改革を進めたのか、天智天皇と天武天皇が行った政策などを文章や資料から読み取ってまとめる。</p>	<p>・この時期に元号や正式な国名が定められたことに気付かせる。 ・唐にならって新しく日本の政治に取り入れられたものを、文章から読み取らせる。 ・政治のしくみ図は、上部に位置するほど政治の実権をにぎっていることを確認する。</p>	<p>①大宝律令によって生まれた、天皇を頂点とし、太政官が政策を決め、その下の八つの省が実施にあたる中央政府（朝廷）のしくみや、地方を国・郡・里に分け、中央から派遣された国司が、郡司や里長に任命された地方豪族を監督する地方のしくみなどを、本文や図などから適切に読み取り、理解している。 ①唐にならった国づくりをめざす過程で初めてつくられた戸籍や律令、本格的な都によって、天皇を中心とする国のしくみができたことを理解している。 ②中国と朝鮮半島の情勢が日本の動きにどのような影響を与えたかを考察し、日本に逃れた百済の人々や遣唐使が果たした役割について適切に表現している。</p>
1年1学期	<p>3 律令国家での暮らし</p> <p>◎奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったのだろうか。</p>	<p>奈良時代の土地制度、税制度は人々の生活にどのような影響を与えたのか、資料などをもとに考える。</p>	<p>・農民にとっての税や兵役、労役がどれほど重かったのか、資料などから読み取らせる。 ・重い負担から逃れるために、どのような行動をとる農民たちがいたのか、文章から読み取らせる。</p>	<p>①戸籍の性別や年齢を偽ることで農民の負担が軽くなる理由を、班田収授法の内容をもとに理解している。 ②班田収授法と墾田永年私財法が定められた理由を、それぞれ具体的な制度上の目的を中心に考察して、適切に表現している。</p>

1年1学期	4 大陸の影響を受けた天平文化 ◎奈良時代にはどのような特徴を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の古代国家が目指した国とは、どのようなものであったか説明しよう。	奈良時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか、大陸の影響と文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇飛鳥時代、奈良時代に行われた政策を確認させる。	・地図を活用し、当時の唐がシルクロードを通してイスラム勢力などと交流をもっていたこと、東大寺正倉院に伝わる五絃琵琶などがそのことを物語っていることを確認させる。 ◇唐から学んだ進んだしくみや文化に着目して考えさせる。	①唐を中心とした国際関係などをもとに、国際的な文化が栄えた背景や、『古事記』や『日本書紀』、『風土記』がつくられた理由を理解している。 ①聖武天皇が仏教を支持し、大仏や国分寺と国分尼寺を造らせた理由、仏教文化が広まっていった理由を理解している。
第4節 展開する天皇・貴族の政治 ◇節の問い◇ これまでに中国から取り入れた制度や文化は、どのように展開したのだろうか。		<「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元のねらい> ○摂関政治をもとに平安京における貴族の政治の特色をとらえさせる。 ○東アジアの情勢の変化によって、わが国でも政治と文化において独自の動きが見られるようになったことに気付かせる。 ○日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気付かせ、文化の国風化が進んだことを理解させる。		<「古代の文化と東アジアとの関わり」を扱うこの単元の評価規準> ①摂関政治をもとに、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③古代の文化と東アジアとの関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1年1学期	タイムトラベル④ 平安時代を眺めてみよう 11～12世紀ごろのある場面 ◎奈良時代と比べると、どのような点が変化し、どのような共通点があるだろうか。	平安時代（平安京）における人々や貴族の生活の様子をえがいた想像図を見て、奈良時代（平城京）と比べてどのような点が変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他、貴族と民衆の格差が分かるもの（住宅や服装）、季節が分かるもの（貴族の庭園などの桜）、寺院がどこにあるか（塔を見つける）に気付かせてもよい。 ・「貴族の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「貴族の邸宅の築地塀が壊れたままになっているのはなぜか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて、貴族の服装や寝殿造など、日本風の文化が描かれていることなど、適切なことがらを読み取っている。 ②碁盤目状の道路という平城京や平安京などの都に共通する特色、日本風で色彩が豊かになっている貴族などの服装の変化など、奈良時代と平安時代の共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(22時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ②『タイムトラベル①、②、③』も参考にしながら、想像図にえがれているさまざまなことがらをもとにして、古代の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。
1年2学期	1 権力を握った貴族たち ◎平安京では、どのような政治が行われたのだろうか。	平安京に都を移したのち、朝廷の政治にどのような変化が見られるようになり、なぜ藤原氏が政治の実権を握ることができたのか、文章や系図などをもとに考える。	・主権者教育の観点から、平安時代の政治のよい面（法律の整備）や問題点（形式ばかりが重んじられることなど）を指摘させてもよい。 ・東アジア（中国）における情勢の変化が、日本の政治に影響を与えた（遣唐使の派遣を停止）ことに気付かせる。	①桓武天皇が平安京に都を移した理由、平安時代に幼い天皇が即位しても問題がなかった理由、地方の政治が乱れていった背景について理解している。 ②藤原氏が政治の実権をにぎり続けることができた理由を考察し、系図などの資料をもとに適切に表現している。
1年2学期	2 唐風から日本風へ変わる文化 ◎平安時代にはどのような特色をもった文化が生まれたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 政治、文化、外国との関わりに着目して、奈良時代と比べて平安時代がどのように変わったか説明してみよう。	平安時代にはどのような特色をもった新しい文学や仏教が展開したのか、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇奈良時代の天平文化との違いに注目させる。	・菅原道真の提案による遣唐使派遣の停止後も、唐の滅亡後に中国を統一した宋の商人や、宋に渡った僧侶の活動によって、引き続き中国の文物がもたらされたことを説明しておく。 ◇「梅」から「桜」への変化などに着目して考えさせる。	①奈良時代と比べた平安時代の政治や文化、外国との関わりの特徴を理解している。 ①絵巻物の絵の場面には、空間の変化だけでなく、時間の流れを表すものもあること、当時の暮らしぶりや建物の構造が読み取れることがわかっており、絵巻物を読み取る技能を身に付けている。 ②国風文化や新しい仏教の特色について、天平文化や奈良時代の仏教との比較をもとに考察し、代表的な文学作品などの例をあげながら適切に表現している。
1年2学期	章の学習を振り返ろう 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■古代の国が成立するために重要なことは何か。	古代の日本で国が成立するための共通点や必要なことを考え、最も重要なものを選び、その理由とともに発表し合う。 古代とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	他の時代と比較することはできないが、中国などとの関係に目を向けさせ、国の成立過程で外国から取り入れたものは何かがヒントとなる。 意見交換の後は、必ず自分の考えを補足する理由や視点を自分が考えたことに取り入れさせるようにする。 古代とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的な見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り、歴史的な見方・考え方を働かせて、国が成立するために重要なことを効果的にまとめている。 ②国が成立するために必要な条件に着目するなどして、古代という時代を大観し、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ③古代の国づくりについて、現代の国家のあり方と比較するなどして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

第2章 中世 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 人々がそれぞれに結び付きを強めていった目的は何か。		<第2部第2章のねらい> ①鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。 ①南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 ①農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。 ②武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ③中世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。		<第2部第2章の評価規準> ①鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ①南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ①農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ②武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③中世の日本について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
第1節 武士の世の始まり ◇節の問い◇ 武家政権はどのように誕生し，どのような政治を行ったのだろうか。		<「武家政治の成立とユーラシアの交流」を扱うこの単元のねらい> ○武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が広まったことを理解させる。 ○武家政治の特徴を考察し，天皇や貴族の政治との違いという観点から，古代から中世への転換の様子に気付かせる。		<「武家政治の成立とユーラシアの交流」を扱うこの単元の評価規準> ①鎌倉幕府の成立などをもとに，武士が台頭して，主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②武士の政治への進出と展開や貴族の政治との違いに着目して，武家政治の特徴を考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，古代から中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③武家政治の成立とユーラシアの交流について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
1年2学期	タイムトラベル⑤ 鎌倉時代を眺めてみよう 13～14世紀ごろのある場面	鎌倉時代の農村のようすをえがいた想像図を見て，平安時代と比べて，どのような点が変わり，どのような共通点があったのかを読み取り，疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，武士の屋敷の周辺の様子に注目させ，平安時代の貴族の屋敷との共通点（農地に囲まれていること）にも気付かせる。 ・「武士の屋敷に運ばれる品物はどこから来るのか」「武士の屋敷で子どもが読んでいる本はどんな内容なのか」「僧侶はどんな教えを説いているのか」「神社をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①小学校の学習をふまえて，武士の屋敷の特徴や弓などの武器が描かれていることなど，平安時代との違いについて，適切なことがらを読み取っている。 ②武士と貴族の屋敷の周辺に農地が広がっていること，牛が人や荷物を運んでいること，武士の屋敷には物見やぐらがあり，周りが堀で囲まれていること，農村にも市が見られることなど，平安時代と鎌倉時代の共通点や相違点を考察し，時代背景などをふまえて適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(37時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ②『タイムトラベル⑥』なども参考にしながら，想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして，中世の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。	
1年2学期	1 各地で生まれる武士団 ◎武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。	武士はどのようにして現れ，都や地方でどのような役割を果たし，どのように成長していったのかを，文章や資料などから読み取る。	・土地の私有が基礎となる社会では，その権利や境界などをめぐる争いが起こりやすくなるが，地方では警察や裁判のしくみが整っていなかったことが，武士の成長や僧侶が武装する背景となっていたことに気付かせる。	①天皇の子孫でもある源氏や平氏が，各地の武士団を広くまとめ，武士の統率者（棟梁）となっていたことを理解している。 ②人々が武装してみずからの力で紛争を解決しようとする社会が形成された経緯をふまえ，武士が現れて成長していった過程を考察し，都と地方の武士が果たした役割をもとに，適切に表現している。	
	2 朝廷と結び付く武士 ◎武士はなぜ政治の実権を握ることができたのだろうか。	平氏はどのような出来事をきっかけにして実権をにぎり，どのような政治を行い，なぜ滅ばされたのか，予想を立てたり，文章や資料などから読み取ったりする。	・戦乱に勝った平清盛が，政治の実権を維持する上で，貴族（藤原氏）と同じような方法をとったこと，貿易の利益に目を向けたことに気付かせ，「長く続く武家政権」にならなかった理由を考えさせる。	①源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景（荘園の権利や境界をめぐる紛争の解決など）や平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事（保元の乱と平治の乱に勝利したこと），平氏政権の経済的な基盤が何であるか（日宋貿易）を理解している。 ②武士として初めて政治の権力を握った平清盛がそれを維持しようとしてとった行動の意味を考察し，具体的な事実をふまえながら適切に表現している。	

	3 鎌倉を中心とした武家政権 ◎鎌倉を中心とした武士政権は、どのような特徴を持っていたのだろうか。	鎌倉を中心とした武家政権は、どのような特徴をもっていたのか、御家人の視点から考えたり、まとめたりする。	・御成敗式目の一部を読ませて、御家人にとって都合がよい慣例があることや、律令とは異なる女性の権利があったことに気付かせる。	①小学校の学習をふまえ、主従関係のしくみを本文から読み取り、図などを用いて適切にまとめ、理解している。 ①資料をもとにして、承久の乱の勝利をきっかけに、鎌倉幕府と東国の武士による支配が西国にも及ぶようになったことを理解している。 ②御家人にとって、地頭に任じられることが大切だった理由（荘園や公領の支配が可能となる）を考察し、主従関係などをもとにして、適切に表現している。
1 年 2 学期	4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 ◎鎌倉時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 武家政権のしくみの特徴とは何か、「領地」「御家人」という言葉を使って説明してみよう。	鎌倉時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか、武家の政治や新しい仏教の動きに着目させ、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇武士が土地を守るためにどのような関係を築いたかを確認させる。	・平安時代までの仏教と鎌倉時代のさまざまな仏教の違いを考えさせる。 ・奈良時代や平安時代から続く伝統的な仏教も根強く信仰されていたことにも着目させ、その理由を予想させる。 ◇武士が土地を守るためにどのような関係を築いたか、将軍、御家人、御恩、奉公、領地、主従関係という重要なキーワードに着目して考えさせる。	①新たな政治の支配者となった武士の気風にあった鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴をもとにして理解している。 ①鎌倉時代の新しい仏教について、開いた人とその教え、どのような人々に受け入れられたかを読み取り、表を用いて適切にまとめ、理解している。 ②鎌倉で禅宗の影響が強まった理由を考察し、武士に受け入れられた背景や幕府による保護などにふれながら、適切に表現している。
第2節 武家政権の内と外 ◇節の問い◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。		<「武家政治の展開と東アジアの動き」を扱うこの単元のねらい> ○元寇がユーラシアの変化の中で起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解させる。 ○南北朝の争乱の中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力をもっていったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことに気付かせる。		<「武家政治の展開と東アジアの動き」を扱うこの単元の評価規準> ①元寇が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などをもとに、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②東アジアの交流に着目して、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③武家政治の展開と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1 年 2 学期	1 海を越えて迫る元軍 ◎蒙古襲来は、鎌倉幕府の政治にどのような影響を与えたのだろうか。 歴史を探ろう 東アジアに開かれた窓口 博多	蒙古襲来はどのような戦いで、幕府と御家人の関係にどのような影響を与えたのか、文章や絵画資料などから読み取ったり考えたりする。	・地図資料などをもとに、元軍は九州北部だけではなく、樺太（サハリン）や琉球、台湾にも襲来していること、高麗（朝鮮）の抵抗や大越（ベトナム）の粘り強い戦いが元軍の日本遠征を妨げる要員となったことに気付かせる。	①フビライ=ハンが中国北部を支配し、国号を元に変えたところから、3度目の日本への遠征を計画したところまでの流れを、年表の形式で適切にまとめ、理解している。 ①蒙古襲来の後、御家人の生活が苦しくなった ②蒙古襲来以後の幕府と御家人の関係の変化を考察し、御家人たちが鎌倉幕府に不満をもつようになった理由を「御恩」と「奉公」という言葉を用いて適切に表現している。
1 年 2 学期	2 南北朝の内乱と新たな幕府 ◎なぜ鎌倉幕府は行き詰まり、室町幕府が成立したのだろうか。	鎌倉幕府はどのようにしてほろび、その後、政治はどのように変化していったのか、守護と守護大名の違いなどに着目し、資料などから読み取ったり考えたりする。	・鎌倉幕府を倒した勢力の柱とも言える後醍醐天皇による政治が短期間で崩壊した理由を、資料をもとにして考えさせる。 ・室町幕府の力が弱くなっていったことが、のちの戦国の動乱につながったことに気付かせる。	①鎌倉幕府の崩壊から建武の新政、室町幕府の成立にいたるまでの経緯を、勢力をもっていた人々の関係もふまえながら、流れ図などで適切にまとめ、理解している。 ①室町幕府が将軍の補佐役として管領をおき、有力な守護大名が任命されて政治が行われるようになると、どのような混乱が見られるようになったか、文章から適切に読み取って、理解している。 ②鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いについて考察し、勢力をもつようになった理由にふれながら、「軍事」「荘園」「国司」という3語を適切に用いて表現している。
1 年 2 学期	3 東アジアの交易と倭寇 ◎室町幕府は、東アジア諸国とどのような関係を築いたのだろうか。	室町幕府は東アジア諸国とどのような関係を築いたのか、文章や地図などをもとにして、図を用いてまとめる。	・14世紀後半は、日本では南北朝の争乱があり、東アジアでは倭寇の活動がさかんになり、中国では元のあとに明が、朝鮮半島では高麗のあとに朝鮮が建国されるという激動の時期であったという共通点に気付かせる。 ・日明貿易によって大量の銅銭が輸入され、国内の貨幣経済の発達を促したことについては、次節の学習と関連させて気付かせる。	①日本（室町幕府）・明・高麗（朝鮮）・倭寇の関係を、政治的な要求や貿易品名（日本の輸出品としては生糸や絹織物、銅銭など）などの経済的な関係を含めて、図を用いて適切にまとめ、理解している。 ②明を中心とした東アジアの伝統的な国際関係に日本が組み込まれ、足利義満が明と勘合貿易を始めた理由を考察し、「朝貢」などの言葉を用いて適切に表現している。

1 年 2 学 期	4 琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 ◎琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 東アジアとの交流がこの時代の日本にもたらした影響とは何か、政治と経済の面から説明してみよう。	琉球王国やアイヌの人々は周辺諸国とどのような関係を築いていたのか、資料や地図などをもとにして、図を用いてまとめる。 ◇日本は、特に中国とどのような関係を築いたかに注目させる。	・前時の学習をより広い範囲で考え、深めていく時間であることに気付かせ、前時で作成した東アジアの関係図に、琉球王国やアイヌ文化圏を追加記入させる。 ◇なぜ朝貢という対等ではない外交関係を中国と結ぶことを幕府（足利義満）が選択したのか、経済的な面に着目して考えさせる。	①日本、明、高麗に琉球、アイヌ、シャムやマラッカなどを加えた関係図をまとめ（前時の図に書き加え）、交易によって結びついていたこと、琉球も日本と同じように明との朝貢貿易を行っていたことを理解している。 ②琉球王国やアイヌの人々が力をつけた背景として共通している点、特に琉球王国が繁栄し、独自の文化を築くことができた理由（地理的な位置の条件を生かした中継貿易）を考察し、各地域との交易や交流にふれながら、適切に表現している。
第3節 人々の結び付きが強まる社会 ◇節の問い◇ 武士や民衆はどのような結び付きの社会をつくっていったのだろうか。		<「民衆の成長と新たな文化の形成」を扱うこの単元のねらい> ○農業など諸産業の発達や畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立が、当時の社会の大きな変化であることや、それにともなって商品流通が活発化したことに気付かせる。 ○武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことを理解させ、この時代の文化の中に現代に結びつくものが見られることに気付かせる。 ○各地に戦乱が広まる中で戦国大名が登場し、自らの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや、下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことに気付かせる。		<「民衆の成長と新たな文化の形成」を扱うこの単元の評価規準> ①農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③民衆の成長と新たな文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
1 年 3 学 期	タイムトラベル⑥ 室町時代を眺めてみよう 15世紀ごろのある場面	室町時代の港町のようなすえがいた想像図を見て、鎌倉時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、中世の社会が変化していることに気付かせ、「武器を持った人々は、集団で何を訴えようとしているのか」「武士以外のどのような人々が力をつけるようになったのか」などの追究課題を考えさせる。	①鎌倉時代の農村と室町時代の港町の共通点や違いについて、武器を持っている人々などに注目し、適切なことがらを読み取っている。 ②牛や馬が農作業や荷物の運搬に利用されていること、商品の売買に貨幣が使われていること、民衆が集団で訴えを起こしたり、茶や絵画などを楽しんだり民衆が力を持つようになっていることなど、鎌倉時代と室町時代の共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(37時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ①人々のヨコの結びつきを示す場面を適切に読み取っている。 ②『タイムトラベル⑤』なども参考にしながら、想像図にえがかれているさまざまなことがらをもとにして、中世の時代の特徴を自分の言葉で適切に表現している。
1 年 3 学 期	1 技術の発達とさまざまな職業 ◎鎌倉時代から室町時代にかけて、産業と交通はどのように発展していったのだろうか。	鎌倉・室町時代において、産業と交通はどのように発達したのか、農業生産力向上のための工夫やさまざまな職業の登場、商業、運送業などの発達に着目させ、絵画資料などから読み取ってまとめる。	・導入で、定期市の様子を描いた絵巻物の一場面から読み取れる商品などを発表させる。 ・本文や資料で紹介されている職業が商業と工業（手工業）のどちらにあたるかを分類させる。	①絵画資料などで示されている職業を商業（売ったり運んだりする仕事）と工業（手工業）に分類し、適切にまとめ、理解している。 ②室町時代に職人の種類が飛躍的に増加した理由や、商業がさかんになった理由について考察し、農業生産力の向上や銅銭の大量輸入による貨幣経済の進展、交通の発達にふれながら、適切に表現している。
1 年 3 学 期	2 団結して自立する民衆 ◎人々は、自分たちの目的を成し遂げるために、どのような行動を起こしたのだろうか。	争いや戦乱が続くなかで、人々はどのような行動を起こしたのか、「自分たちの力」「利害」「結びつき」をキーワードにして、資料などからその具体例を見つけ出してまとめる。	・奈良時代などに負担に苦しんだ農民がとった行動をふりかえらせ、室町時代の「自力救済」（自分たちのことは、自分たちの力で解決するという考え方）が今までになかった行動であることに気付かせる。	①各地で起こった一揆のなかから、おもなものを地図や表などを用いて適切にまとめ、理解している。 ①村や都市でそれぞれどのような自治が行われていたのか、惣や寄合の具体的な運営の方法をふまえて理解している。 ②室町時代の武士や農民、都市の商工業者たちが、主従関係のような「タテのつながり」ではなく、「ヨコのつながり」によって実現しようとしたことを、一揆や惣、寄合のしくみや行動をもとに考察し、適切に表現している。
1 年 3 学 期	3 全国に広がる下剋上 ◎応仁の乱をきっかけに、どのような人が力を付けて、社会は変わっていったのだろうか。	応仁の乱をきっかけに、各地でどのような勢力が新たに力をつけたのか、地図などをもとに調べたりまとめたりする。	・身近な地域を支配した戦国大名や興味のある戦国大名がどのような人物で、どのような政策をとったか、調べさせる。 ・「けんかをした者は、いかなる理由によるものでも、処罰する」という喧嘩両成敗法を定めた戦国大名のねらい（自力救済の禁止と法による統制）を考えさせる。	①どのような人が戦国大名となったのか、戦国大名はどのような政策を実施したのか、戦国時代になって天皇や公家・大寺社の力が急速に弱まっていった理由（戦国大名に荘園を奪われたため）とは何かを理解している。 ②戦国大名と守護大名の違いをさまざまな角度から考察し、「領国」「荘園」「分国法」という語を用いて適切に表現している。

1 年 3 学 期	4 庶民に広がる室町文化 ◎室町時代にはどのような特色を持った文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 室町時代の社会のしくみの特徴とは何か、「応仁の乱」,「戦国大名」,「自治」という言葉を使って説明してみよう。	室町時代にはどのような特色をもった文化が展開したのか, 文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇タテとヨコのつながりに注目させる。	・年中行事, 衣服, 食生活, 住居などで現代につながる文化や生活様式ができたことに気付かせる。 ◇「下剋上の風潮」に着目して考えさせる。	①現代の家庭や地域で見られる文化や生活様式などが室町時代に生まれたことを理解し, 「衣・食・住・その他」に分けた表を用いて適切にまとめ, 理解している。 ①室町時代の社会のしくみの特徴を, 応仁の乱後の政治や社会の動きをふまえて理解している。 ②幕府が鎌倉から京都に移ったことによる文化への影響について考察し, 禅宗や大陸の影響を受けていた武家の文化と, 京都の公家の文化がまじり合っていたことなどにふれながら, 適切に表現している。
1 年 3 学 期	章の学習を振り返ろう 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 人々がそれぞれに結び付きを強めていった目的は何か。	中世までに登場した身分や職業を武士と庶民のまとまりに分けて, それぞれのタテとヨコの関係図をつくり, どのような結びつきがなぜ強められたかを考え, 話し合う。 中世とはどのような時代か, 自分の言葉で表現したり, 意見交換を行ったりする。	・古代の身分との違いに着目すると, 中世の特色を表現しやすくなることを助言する。 ・武士のまとまりは, 鎌倉時代, 室町時代, 戦国時代の三つの時期に分けて考えさせる。 ・中世とはどのような時代か, まずは短い言葉で特色を表現させ, 歴史的な見方・考え方(時代や年代, 推移, 比較, 相互の関連)を働かせて, そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り, 歴史的な見方・考え方を働かせて, 中世の武士や庶民の関係図を効果的にまとめている。 ②武士や庶民のタテやヨコの関係に着目するなどして, 中世の日本と世界を大観し, 時代の特色を多面的・多角的に考察し, 適切に表現している。 ③中世に強められた人々の結びつきについて, 現代のあり方と比較するなどして, よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。